

別添 アンケート調査用紙

あなたについて

・職種を教えてください

1. 精神科医師
2. 精神科以外の医師
3. 薬剤師
4. CRC
5. 看護師
6. 事務職員
7. その他()

・年代を教えてください

1. 29歳以下
2. 30 39歳
3. 40 49歳
4. 50 59歳
5. 60歳以上

・精神科経験年数(通算・兼職も含む)を教えてください

・現在の施設での経験年数を教えてください

・本研究における役割を教えてください(複数回答可)

A・Dへ	1. 症例の選択をした
B・Dへ	2. 症例の主担当者であった
	3. 症例のフォローアップに関わった(主ではない)
C・Dへ	4. 院内で研究班に関わる事務作業(謝礼金、データ入力、処方調査など)をした
	5. 研究班との連絡・調整をした
Dへ	6. 院内での役割を決めた(担当者の人選等)
	7. その他 ()

注: 例: 副院長先生で症例を選び自らも担当し、研究班との連絡もしたが、処方調査や入力は事務に任せた。 1,2,5,6 を選ぶ A,B,C,D すべてにお答えください。

例: 看護長で、症例選択で医師と相談し、選ばれた症例の経過を見ていた

1,3 を選ぶ A,B,D にお答えください

A

多くの患者さんの中から本研究に参加する症例を選択した理由を教えてください。(複数回答可)

1. 患者さんが薬剤減量に積極的だった
2. 患者さんが同意してくれそうだった
3. (先生が)その患者さんに対して、薬剤減量を特にしたかった
4. 薬剤減量をして、患者さんが調子を崩さないだろうと思った
5. 薬物減量をして、患者さんに(病状以外の)問題は生じないと思った
6. 薬剤減量をすると、患者さんの症状が良くなると予測した
7. 薬剤減量をすると、患者さんの副作用が減ると予測した
8. 薬剤減量をすると、患者さんの QOL が良くなると予測した
9. 組み入れ基準に合致する患者さんが他にいなかった
10. 投与されている抗精神病薬が多い方だった
11. 投与されている抗精神病薬が少ない方だった
12. 組み入れ基準に合致する患者さんからランダムに選択した
13. 研究期間内にタイミングよく来院した患者さんを選択した
14. その他()

2. 減量は慎重にすべきだと思った
3. 減量はよくないことだと思った

薬物減量のポイントやコツがありましたら教えてください。

研究期間中の診療を通して、困難な点がありましたらお知らせください。

C

当研究班の担当者の対応でよかった点があれば教えてください。

当研究班の担当者の対応で、改善すべき点や、あれば良かった点があれば教えてください。

D

・本研究に参加される以前、抗精神病薬の多剤大量処方についてどのように考えておられましたか。

1. 患者さんにとって良くないものだと思っていた
2. 一部の患者さんにとっては必要なものだと思っていた
3. 多くの患者さんにとって必要なものだと思っていた
4. 知っているが特に考えていなかった
5. 知らなかった
6. その他()

・現在、抗精神病薬の多剤大量処方についてどのように考えておられますか。

1. 患者さんにとって良くないものだと思う
2. 一部の患者さんにとっては必要なものだと思う
3. 多くの患者さんにとって必要なものだと思う

4. 知っているが特に考えていない
5. 知らない
6. その他()

・抗精神病薬の多剤大量処方のは正は必要だと思いますか。

1. はい
2. いいえ
3. わからない

先の質問で 1.はい、と答えられた方にお伺いします。

抗精神病薬の多剤大量処方のは正に必要なものは何だと思いますか(複数回答可)

1. 安全・適切なガイドライン
2. 診療報酬による誘導
3. 啓蒙・普及活動
4. より効果的な抗精神病薬の登場
5. 精神科医師の理解
6. 病院内スタッフ(医師以外)の理解
7. 患者さんの理解
8. 家族などの理解
9. わからない
10. その他()

・本研究に関するご意見・ご感想・ご要望など(フィードバックしてほしい事項など)他にありましたら、ご記入願います。